

早期体験学習の学習動機付けおよび将来の進路設計に対する効果の検証

○田口 忠緒<sup>1</sup>, 野田 幸裕<sup>1</sup>, 岡本 光美<sup>1</sup>, 鍋島 俊隆<sup>1</sup>(<sup>1</sup>名城大薬)

【目的】名城大学薬学部における早期体験学習は、“学生主導型教育”“少人数グループ学習”および“エイジ・ミキシング”を骨子とし、1) 準備学習、2) 体験学習、3) 学習の整理、4) 成果の発表・共有の4ステージを1日程として、A:病院・福祉施設、B:保険薬局、C:不自由体験、D:救命救急法の4項目を4日程で実施している。本研究では、本教科が進路選択・変更に及ぼす影響および基礎薬学系教科への学習意欲に与える効果について調べた。

【方法】平成18年度(A群)および19年度(B群)に本教科を受講した学生全員について、それぞれ早期体験学習実施直後に1) 学習目的、2) 学習内容、3) 学習満足度、4) 学習態度、などについてアンケート調査を行った。また、学年が進んだ際の効果波及を調べるため、本教科を履修して1年経過後(A群)および2年経過後(B群)に、1) 薬学部を志望した時期、2) 薬学部に入學した理由、3) 併願の他学部、4) 薬学部卒業後の進路、5) 本教科の進路選択・変更および学習意欲に対する影響について、後ろ向きアンケート調査を行った。

【結果・考察】実施直後のアンケート結果では、学生が教科の実施目的を理解し、学習モチベーションが高揚したことが確認された。また、実施1、2年後の後ろ向きアンケート調査は、早期体験学習における体験が、“進路”選択あるいは変更に影響を与えていることを明確に示していたものの、基礎薬学系教科への学習意欲の向上には顕著な効果を与えていないことを示していた。これらの結果から、早期体験学習で得られたモチベーション高揚効果を、上級学年にまで波及させるためには、基礎薬学系教科が実務系教科を興味深く学ぶための基盤となることを、徹底して納得させるべきであると思われた。